

黒毛和種繁殖農場での衛生対策について

～ 哺乳ロボット導入にあたっての注意点



管内の哺乳ロボット導入黒毛和種繁殖農場にご協力をいただき、本年度、「哺乳ロボット導入にあたっての衛生対策」について調査しました。

「ロボットの導入＝群飼育の導入」であり、疾病予防対策には、より快適な環境の提供と細やかな個体管理が必要です。哺乳ロボットの導入にあたっては、以下の疾病対策が重要と考えられました。

環境ストレスの低減 ～換気の励行、清潔な敷料、保温対策の実施～

- アンモニア濃度上昇は呼吸器病発生の原因です。冬場でも定期的に換気を実施しましょう。
- 敷料は清潔に。寝床は乾燥敷料をたっぷりと敷き、お腹の冷えを防ぎましょう。
- すきま風を防ぎ、牛体に直接風が当たらないように。カーボンヒーター、カーフハッチの利用が効果的です。



牛群ストレスの低減 ～適切な飼育密度、異なる月齢牛の同居防止～

- 黒毛和種子牛は群飼育のストレスに敏感です。群への導入は複数以上で、月齢に伴う移動は群毎が理想的です。
- 哺乳ロボット専用牛舎の設置、適切な飼養密度（4.5㎡/頭以上が理想）。後からの牛舎の拡張は困難です。頭数増加で病気発生のリスクが高まります。



抗病対策の実施 ～ワクチンの実施（母、子）初乳の給与、導入牛の隔離～



個体管理の徹底 ～毎日の観察・記録の実施、労働力の確保～

- 朝晩は子牛の様子を観察し記録表を活用しましょう。
- 病気の兆候が見られたら早めに診療を受けましょう。

清潔性の確保 ～毎日の清掃、牛舎の消毒の実施、踏込消毒槽の設置～

- 汚れた飼槽や水槽は病気蔓延の原因になります。
- 病原体の侵入防止のため踏込消毒槽を設置しましょう。

